

Laneed

Easy Network Solution Provider

Ethernet Board

Wake on LAN対応
PCIバス 10/100Mbps イーサネットボード

■ LD-10/100AWS 10/100BASE  

OSごとの
導入手順フロー

[4・5ページ](#)

必ずお読み
ください

取り付ける

Windows98
で使う

Windows95
で使う

WindowsNT4.0
で使う

必要に応じて
お読みください

User's Manual

Ethernet Adapter

Wake on LAN対応
PCIバス 10/100Mbpsイーサネットボード

LD-10/100AWS

User's Manual ユーザーズマニュアル

ご注意

- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- 本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートは行っておりません。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

■ ■ はじめに ■ ■

このたびは、弊社ラニードイーサネットボード"LD-10/100AWS"をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このマニュアルには、LD-10/100AWSをコンピュータ本体に導入するための手順が説明されています。また、安全にLD-10/100AWSをお使いいただくための注意事項が記載されています。コンピュータ本体への取り付け作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みになり、安全に導入作業をおこない、製品を使用するようにしてください。なお、このマニュアルでは、"LD-10/100AWS"のことを本製品と表記しています。

このマニュアルは製品の導入後も大切に保管してください。

安全にお使いいただくために

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

 警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。

警告

-  本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体と周辺機器の電源を切り、電源プラグをACコンセントから抜いてからおこなってください。電源プラグを抜かずに作業をすると火災や感電、故障の原因になります。
-  小さな子供のいるそばで、取り付け取りはずしの作業をおこなわないでください。また、子供のそばに工具や部品を置かないようにしてください。けがや感電、部品を飲み込んだりする危険性があります。
-  本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。
-  本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。
-  本製品を取り付けたコンピュータ本体から煙やへんな臭いがしたときは、直ちに電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
-  本製品を取り付けたコンピュータ本体に、水などの液体や異物が入った場合は、直ちに電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
-  本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。火災や感電、故障の原因になります。

注意

-  コンピュータ本体のカバーや本製品の取り付け、取りはずしのときは慎重に作業をおこなってください。強引な着脱は、機器の故障や、けがの原因になります。
-  本製品の取り付け、取りはずしのときは、本製品に触れる前に金属性のもの(スチールデスク、ドアのノブなど)に手を触れて、静電気を除去してから作業をおこなってください。静電気は本製品の破損の原因になります。
-  本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を次のようなところで使用しないでください。
 - ・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
 - ・直射日光のあたるところ
 - ・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
 - ・静電気の発生するところ、火気の周辺
-  長期間、本製品を取り付けたコンピュータ本体を使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。

本製品は第一種情報装置(商工業地域で使用される情報装置)で、商工業地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)に適合しています。したがって、住宅地またはその隣接した地域で使用すると、ラジオ、テレビジョン受像機等に受信障害を与えることがあります。このマニュアルの説明にしたがって正しくお取り扱いください。

OSごとの導入手順フロー

Windows98の場合

1 パッケージの内容を確認します (8ページ)

2 ユーザ登録カードを記入します (10ページ)

3 本製品を取り付けます。(15ページ)

4 Wake on LAN機能を使用するときはケーブルを接続します。(16ページ)

5 Windows98がプラグ&プレイ機能により、本製品を自動認識します。Windows98のオペレーションディスクからドライバをインストールします。(20ページ)

6 必要に応じてサービスを追加します。
※1

Wake on LAN機能を使用するときはBIOSの確認と、パケット送信側のコンピュータにツールのインストールが必要です。(18ページ)

Windows95の場合

1 パッケージの内容を確認します (8ページ)

2 ユーザ登録カードを記入します (10ページ)

3 本製品を取り付けます。(15ページ)

4 Wake on LAN機能を使用するときはケーブルを接続します。(16ページ)

5 Windows95がプラグ&プレイ機能により、本製品を自動認識します。付属のディスクからドライバをインストールします。※2(25ページ)

6 必要に応じてサービスを追加します。
※1

Wake on LAN機能を使用するときはBIOSの確認と、パケット送信側のコンピュータにツールのインストールが必要です。(18ページ)

WindowsNT4.0の場合

1 パッケージの内容を確認します (8ページ)

2 ユーザ登録カードを記入します (10ページ)

3 本製品を取り付けます。(15ページ)

4 Wake on LAN機能を使用するときはケーブルを接続します。(16ページ)

▶ はじめてネットワークを導入するとき

5 ドライバをインストールします。インストールしながらネットワークで利用するサービス等を設定します。(38ページ)

▶ すでにネットワークを導入しているとき

6 ドライバをインストールします。(38ページ)

7 必要に応じてサービスを追加します。

Wake on LAN機能を使用するときはBIOSの確認と、パケット送信側のコンピュータにツールのインストールが必要です。(18ページ)

その他のOSの場合

1 パッケージの内容を確認します (8ページ)

2 ユーザ登録カードを記入します (10ページ)

3 本製品を取り付けます。(15ページ)

4 Wake on LAN機能を使用するときはケーブルを接続します。(16ページ)

5 付属のフロッピーディスクにあるインストール手順を書いたテキストファイルを読んで、ドライバをインストールしてください。(51ページ)

Wake on LAN機能を使用するときはBIOSの確認と、パケット送信側のコンピュータにツールのインストールが必要です。(18ページ)

※1 このマニュアルの32ページからWindows98/95のピア・ツー・ピアによるネットワークの設定例を説明しています。参考にしてください。

※2 プラグ&プレイでもドライバディスクやWindowsのオペレーションディスクを挿入する作業が必要なことがあります。

NT4.0のシステムと同時にインストールするとき

38ページの **注意** をお読みください。

このマニュアルの読みかた

このマニュアルの構成について

このマニュアルは次のような内容で構成されています。

■必ず読んでいただきたいところ。⇒8～16ページ

■Wake on LAN機能を使用する方に読んでいただきたいところ。
⇒12, 16～19ページ

■Windows98で使用する方に読んでいただきたいところ。
⇒20～24, 32～37ページ

■Windows95で使用する方に読んでいただきたいところ。⇒25～37ページ

■WindowsNT4.0で使用する方に読んでいただきたいところ。⇒38～50ページ

■必要に応じて読んでいただきたいところ。⇒51～68ページ
(その他のOSでのドライバのインストール方法や必要に応じて使用する機能、トラブルが発生したときの対応などを説明しています)

このマニュアルの4ページに、本製品を導入する手順フローがあります。
参考にしてください。

このマニュアルの記号について

●用語について

本製品・LD-10/100AWSのことを、このマニュアルでは、「本製品」と記載しています。

●記号について

記号	意味
注意	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
MEMO	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
↑ ↓	キーボード上のカーソルキーを表わします。
Enter	キーボード上のEnterキーを表わします。
スペース	キーボード上のスペースバーを表わします。
Esc A	その他、キーボード上のキーを表わします。

もくじ

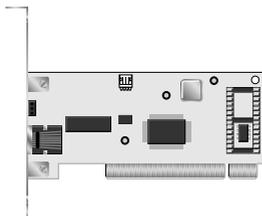
安全にお使いいただくために	2
OSごとの導入手順フロー	4
このマニュアルの読みかた	6
もくじ	7

1. パッケージの内容を確認する	8
2. 製品のサポートとユーザ登録	9
製品の保証とサービス	9
ユーザ登録について	10
3. 本製品の概要について	11
本製品の特長	11
Wake on LANについて	12
動作環境について	13
4. 各部の名称とはたらき	14
5. コンピュータ本体に取り付ける	15
本製品をPCIバスに取り付ける	15
Wake on LAN用ケーブルを接続する	16
6. Windows98でのセットアップ	20
7. Windows95でのセットアップ	25
8. Windows98 Windows95でのピア・ツー・ピア環境の設定例	32
9. WindowsNT4.0でのセットアップ	38
10. その他のOSでのセットアップ	51
11. アダプタのプロパティについて	52
Windows98/95の場合	52
WindowsNT4.0の場合	54
12. 診断プログラムによるチェック	55
付録1. こんなときは	60
付録2. サポートサービスについて	66
付録3. 基本仕様	68

パッケージの内容を確認する

本製品のパッケージには、次のものが入っています。作業を始める前に、すべてが揃っているか、必ず内容を確認してください。なお、梱包には万全を期しておりますが、不足品や破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。

- イーサネットアダプタ
LD-10/100AWS



- Wake on LAN用ケーブル
(PC/AT互換機用、
NEC PC98-NX用) 各1本



- ドライバディスク 1枚



- Navitool Lite ディスク 1枚



- ユーザズマニュアル
(このマニュアルです) 1冊



- ユーザ登録カード



- 保証書



製品のサポートとユーザ登録

製品の保証とサービス

本製品は、保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はご購入の日より1年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、ご購入の販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますので、ご注意ください。

- ・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- ・本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- ・本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

●修理の依頼

本製品が故障した場合には、故障した製品と保証書に、故障状況を記入したものを添えて、下記までご連絡ください。

保証期間内

まずは、ラニード・サポートセンターにご連絡ください。

電話番号 03-3444-5571 FAX番号 03-3444-8205
 電話受付 月曜日～金曜日 10:00～12:00 13:00～17:00
 (ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日を除く)
 ※FAXによる受信は24時間おこなっております。

保証期間外

東京都八王子市子安町4-19 セキエレクトロニクス株式会社内
 エレコム修理センター
 電話番号 03-5950-4410
 電話受付 月曜日～金曜日 10:00～12:00 13:00～16:00
 (ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日を除く)

ユーザ登録について

パッケージの内容が確認できたら、作業をはじめる前に、ユーザ登録カードに必要なことをご記入の上、ご投函ください。

郵便はがき
社会受取人形 170-8765
〒6077 東京都豊島区東池袋3-13-2
住友不動産東池袋ビル
LANEED サポートセンター行
「宛手不明」
〒6077 東京都豊島区東池袋3-13-2
住友不動産東池袋ビル
LANEED サポートセンター行
「宛手不明」

ユーザ登録カード

●S/N 品番
番号を控えておきます。

●品番
●S/N

●会社名
会社名、住所などを記入します。

※裏面のアンケートにもお答えください。
ご意見は、今後の製品開発などに役立てていきます。

本製品に関して、ご質問がある場合は、ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。

●ラニード・サポートセンター

TEL : 03-3444-5571 FAX : 03-3444-8205

受付時間：月～金曜日 10:00～12:00 13:00～17:00
(夏期・年末年始特定休業日、祝祭日は除きます)
※FAXによる受信は24時間行っております。

●インターネット：<http://www.elecom-laneed.com>

●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。
ガイドンスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

メインメニューBOX番号(提供している情報の一覧がFAXされます)

559900

電話番号

東京：03-3940-6000 大阪：06-6455-6000 名古屋：052-453-6000
福岡：092-482-6000 札幌：011-210-6000 仙台：022-268-6000
広島：082-223-6000

ここでは、本製品の特長や動作環境について説明しています。

本製品の特長

●Wake on LAN機能により、リモートでの起動が可能

ACPI規格のWake on LAN機能に対応しています。本製品は従来の10/100Mbps対応のイーサネットアダプタとして使用することはもちろん、Wake on LAN機能を利用することで、本製品を取り付けたコンピュータを別のコンピュータからリモートで起動することができます。本製品には、Wake up Packetを送信できるネットワーク監視ツール「Navitool Lite」が標準で添付されています。ホストからクライアントを起動して、リモートでアプリケーションを更新するなど、クライアントのメンテナンスなどに威力を発揮します。

●Windows98/Windows95のプラグ&プレイに対応

Windows98/95のプラグ&プレイに対応しますので、プラグ&プレイに対応したコンピュータ本体との組み合わせで、簡単にセットアップが可能です。本製品をコンピュータ本体に取り付けて電源を入れると、必要な作業をメッセージで知らせます。本製品に付属のドライバディスクとWindowsのオペレーションディスクを用意すれば、画面のメッセージに従って挿入するだけですべてのセットアップが完了します。再起動後はすぐに使用可能な状態になります。

●バスマスタ機能によりCPUへの負担を軽減

データ転送の制御をCPUに替わって、本製品自身が制御するバスマスタ機能によりCPUへの負担を軽減しました。せっかくCPUを高速化しても、新しいデバイスによって処理が増えては意味がありません。本製品ならCPUへの負担を抑えて、ネットワークの導入が計れます。また、バスマスタ機能では、CPUの処理状況に関係なくシステムバスへのアクセスがおこなえるため、頻繁なアクセスが可能になり、データの転送速度が向上します。

●Auto-Negotiation対応だから10M⇔100Mbps自動切り替え

Auto-Negotiation機能により、接続先の伝送速度を自動的に判断。10Mbpsと100Mbpsのいずれか適切な伝送速度を実現します。また、ネットワークアダプタのプロパティの詳細設定で、伝送速度を固定することも可能です。

●FIFOバッファを内蔵し、効率のよい処理と転送を実現

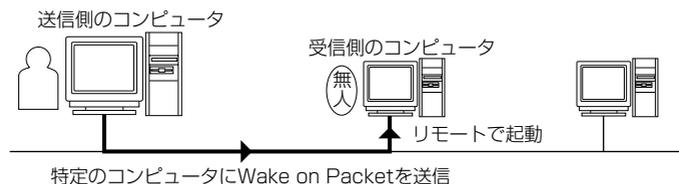
本製品はFIFOバッファを内蔵しています。FIFOバッファにより、先に入ったデータから先に処理されますので、効率のよい処理がおこなわれ、転送速度を向上させることができます。

●Full Duplex対応で高速データ転送

Full Duplex(全二重モード)に対応。同じくFull Duplex対応のスイッチングHUBに100BASE-TXまたは10BASE-T用ケーブルで接続すると、データの送信と受信を同時におこなえます。これにより、チャンネルの帯域幅が200Mbps(10BASE-Tは20Mbps)に増大され、効率のよい伝送路を持ったネットワーク環境が実現できます。さらに、CSMA/CDプロトコルの特長であるコリジョンを回避することにより、パフォーマンスの低下を防ぎます。

Wake on LANについて

「Wake on LAN」は、ACPI規格のひとつの機能です。ACPIはAdvanced Configuration and Power Interfaceの略で、Intel、Microsoft、東芝の3社が共同で開発した省電力に関する規格です。ハードウェアだけでなくOSも含めて電力管理をおこないます。「Wake on LAN」機能を使用すると、電源管理ツールがあるコンピュータから「Wake up Packet(Magic Packetともいう)」を送信することで、電源が切れた状態にある特定のコンピュータをリモートで起動することができます。Wake on LAN機能の利用方法としては、オフィスで業務時間外にホスト側からクライアントと起動して、アプリケーションを一齐に更新したり、各種設定をリモートで変更することができます。クライアントまで出向いて電源を入れて、1台ずつ更新したり、コンピュータの知識がない使用者によるアプリケーションのインストールミスや設定変更でのミスを防ぐことができます。



●Wake on LANの動作条件

- ・送信側のコンピュータには、Wake up Packetを送信できる電源管理ツールが必要です。本製品には、Wake up Packetを送信できるネットワーク監視ツール「Navitool Lite」が付属しています。(「Navitool Lite」は、Windows95/98、WindowsNT3.51/4.0でのみ動作します。)
- ・受信側のコンピュータには、Wake on LANに対応したイーサネットボードを実装し、イーサネットボードはマザーボードのWake on LAN用の接続端子とケーブルで接続する必要があります。また、コンピュータのBIOSがWake on LANに対応し、設定が有効になっている必要があります。

動作環境について

本製品は、以下の動作環境に対応しています。

対応機種	IBM PCおよびPC/AT互換機(DOS/Vマシン)、NEC PC98-NXシリーズで、下記の条件を満たす機種 ・PCIバスの空きスロットがあること ・IRQの空きがあること ※自作機での動作は保証しておりません。
対応OS	Windows95/98、WindowsNT3.51/4.0 NetWare3.2J/ 4.10J/ 4.11J/ MS-LanManager

1999年4月20日現在

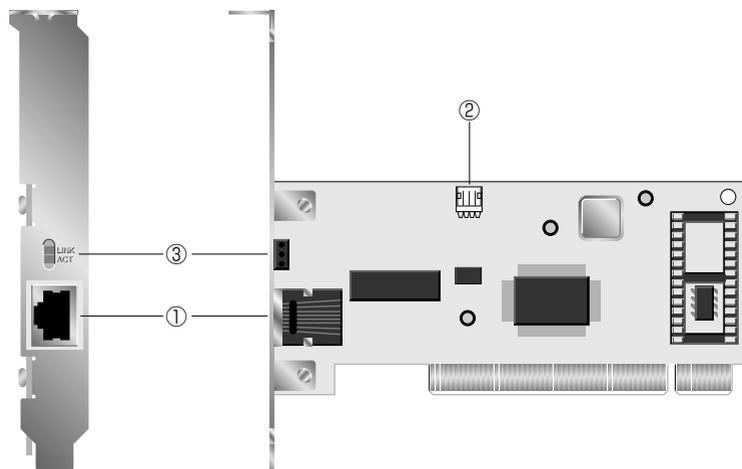
■Wake on LAN機能の使用条件

Wake on LAN機能を使うには、前ページの「Wake on LANの動作条件」の内容を満たしている必要があります。

4

各部の名称とはたらき

本製品の各部の名称とはたらきを説明します。



①	RJ45モジュージャック (10BASE-T, 100BASE-TX)	10BASE-Tまたは100BASE-TX対応ケーブルのRJ45モジュラープラグを差し込みます。100BASE-TX使用時は、必ずカテゴリ5のケーブルを使用してください。
②	Wake on LAN用接続端子	本製品に付属のケーブルを接続します。
③	LEDインジケータ	ACT データの送受信時に点灯します。データは断続的に送受信されますので、見かけ上は点滅しているように見えます。
		LINK HUBなど、外部との接続が正常な場合に点灯します。

5

コンピュータ本体に取り付ける

本製品はコンピュータ本体のPCIバスに取り付けます。コンピュータ本体の種類によって、カバーの開けかたやPCIバスへのボードの取り付けかたが異なります。ご使用になるコンピュータ本体のマニュアルにあるPCIバス用ボードの取り付け方法の説明も参考にしてください。

注意 作業を始める前に、コンピュータ本体および周辺機器の電源プラグをACコンセントから必ず抜いてください。本製品の取り付け時に、人体が内部回路に触れることがあります。電源プラグを差し込んだままにしておくと、感電の原因になります。また、コンピュータ本体の電源スイッチを切っただけでは、回路上に微電流が流れていることがあります。そのため、正常に本製品を認識できなかったり、取り付け時に本製品がコンピュータ本体の回路に触れてショートし、破損する恐れがありますのでご注意ください。

注意

- Wake on LAN機能は、12ページ「Wake on LANの動作条件」を満たしたコンピュータでしか使用できません。また、Wake on LAN機能の設定には、付属のネットワーク監視ツール「Navitool Lite」が必要です。
- 必ずコンピュータ本体のマニュアルも併せて読みながら、本製品をPCIバスに取り付けてください。

本製品をPCIバスに取り付ける

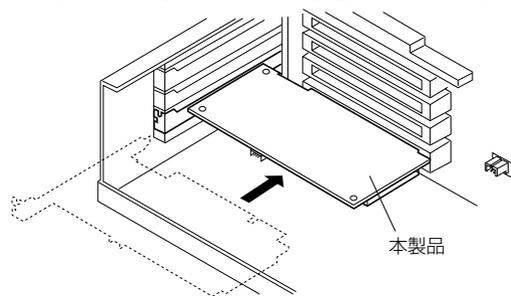
■ コンピュータ本体の電源を切った状態で、電源プラグがACコンセントから抜いてあることを確認します。

1 コンピュータ本体のカバーをはずします。
・カバーのはずしかたは、コンピュータ本体のマニュアルを参照してください。

2 本製品を取り付けるPCIバススロットを決め、そのスロットのカバーをはずします。
・スロットカバーは通常ネジ止めされています。

3 スロットカバーをはずしたPCIバススロットに、本製品をしっかりと差し込みます。

・ゆがみがないように、ゆっくりとスロットの奥まで均一に差し込みます。

**4** 手順 **2** ではずしたネジで本製品を固定します。**5** ネットワークケーブルを本製品に接続します。

「Wake on LAN機能」をご使用になる場合は、次の「Wake on LAN用ケーブルを接続する」へ進みます。ご使用にならない場合はドライバのインストールへ進みます。以下の参照ページをご覧ください。OSに合わせて該当するページへ進んでください。

- Windows98の場合 ⇨20ページ「6.Windows98でのセットアップ」
- Windows95の場合 ⇨25ページ「7.Windows95でのセットアップ」
- WindowsNT4.0の場合 ⇨38ページ「9.WindowsNT4.0でのセットアップ」
- その他のOSの場合 ⇨51ページ「10.その他のOSでのセットアップ」

Wake on LAN用ケーブルを接続する

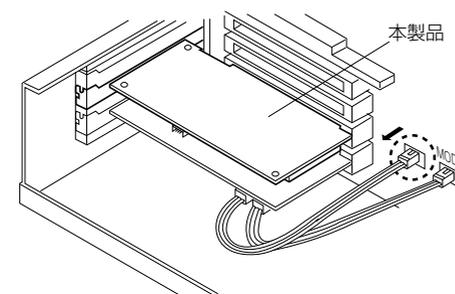
Wake on LAN機能を使用する場合は、本製品に付属のケーブルで本製品とコンピュータ本体のマザーボードにあるWake on LAN用の接続端子をつなぐ必要があります。

注意 コンピュータ本体のマザーボードにあるWake on LAN用の接続端子は、コンピュータ本体の機種によって異なります。必ずコンピュータ本体に付属のマニュアルを読んで、端子の位置を確認してください。

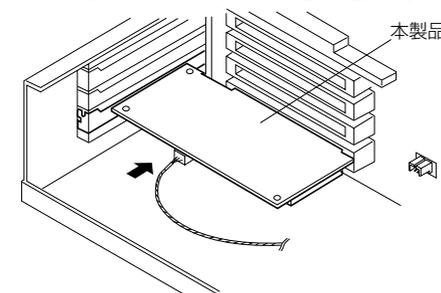
NEC PC98-NXでご使用になる場合は、手順 **1** の前に以下の作業をおこないます。

VALUESTER NXでご使用の場合、標準で装備されているモデムボードからコンピュータを制御するために、すでにモデムボードとWake on LAN用の接続端子が、ケーブルで接続されています。このケーブルをはずして、付属のNEC PC-98NX用ケーブルを使って本製品と接続します。なお、モデムボードからのケーブルをはずすことで、リング機能は使用できなくなります。

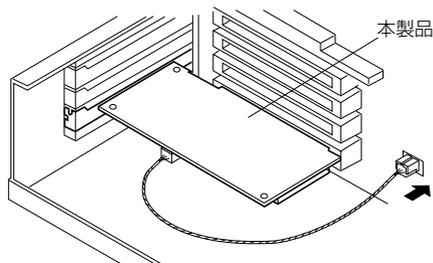
モデムボードからマザーボードのWake on LAN用の接続端子に接続されたケーブルをはずします。「MODEM」と書かれたコネクタに接続されているケーブルは、はずさないでください。

**1** 本製品のWake on LAN用接続端子に本製品に付属のケーブルを接続します。

・コンピュータ本体の機種に合ったケーブルをご使用ください。



- 2** コンピュータ本体のマニュアルを参考にして、マザーボード上のWake on LAN用の接続端子に、付属のケーブルのもう一方を接続します。



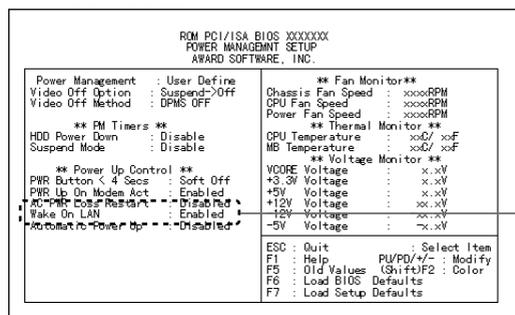
これで接続は完了です。以下の参照ページをご覧になり、OSに合わせて該当するページへ進んでください。

- Windows98の場合 ⇨20ページ「6.Windows98でのセットアップ」
- Windows95の場合 ⇨25ページ「7.Windows95でのセットアップ」
- WindowsNT4.0の場合 ⇨38ページ「9.WindowsNT4.0でのセットアップ」
- その他のOSの場合 ⇨51ページ「10.その他のOSでのセットアップ」

Wake on LAN機能を使う

Wake on LAN機能を使うには、12ページの「Wake on LANの動作条件」を満たしている必要があります。さらに、本製品を取り付けたコンピュータのBIOSにあるパワーマネージメントの設定で「Wake on LAN」機能を有効にする必要があります。

◆BIOS画面の画面例



Wake on LAN機能を「Enabled」に設定します。

Wake on LAN機能の設定画面がBIOS設定のどこにあるかは、それぞれのコンピュータ本体のマニュアルでご確認ください。

●電源管理ツール

Wake on LAN機能を有効にしたコンピュータを起動させるためには、Wake up Packet (Magic Packet)を送信する電源管理ツールが必要です。本製品には、ネットワーク監視ツールとして、「Navitool Lite」を標準添付しています。「Navitool Lite」の使用方法については、フロッピーディスクのドキュメントファイルをお読みください。

◆ネットワーク監視ツール「Navitool Lite」のPacket送出画面の例



本製品はWindows98のプラグ&プレイ機能に対応しています。本製品を取り付けて、Windows98を起動すると自動的にセットアップが開始されます。

セットアップを始める前に、コンピュータ本体のPCIバスに本製品を取り付けておいてください。

・取り付けの手順は15ページをお読みください。

1 コンピュータ本体の電源を入れて、Windows98を起動します。

2 しばらくすると、PCIバスの新しいハードウェアを検出したことを知らせるメッセージが表示されます。

・〈新しいハードウェアの追加ウィザード〉画面が表示されます。

3 「次へ>」をクリックします。

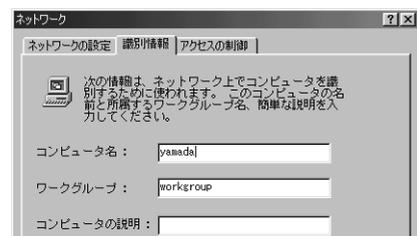


MEMO

コンピュータ名、ワークグループ名の入力を促されたときは...

① [コンピュータ名]の入力を促すメッセージが表示されますので、OK をクリックします。

② 【ユーザー情報】タブで[コンピュータ名]と[ワークグループ]を入力します。入力が終わればOK をクリックします。



コンピュータ名	インストール中のコンピュータに付ける名称を入力します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザーの名前、部署単位で使うコンピュータなら部署名などを入力します。
ワークグループ	インストール中のコンピュータが接続されているネットワークをグループ分けするための名称を付けます。グループ内のコンピュータの[ワークグループ]の名称はすべて同じになります。

4 フロッピーディスクドライブに本製品に付属のフロッピーディスクを入れます。

5 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ>」をクリックします。



・デバイスの種類を選択する画面が表示されます。

6 「フロッピーディスクドライブ」が選択されていることを確認し、「次へ>」をクリックします。

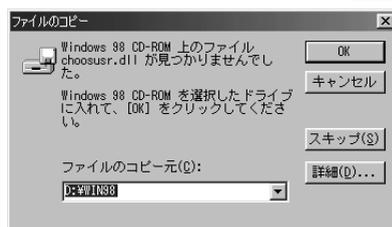


7 **次へ >** をクリックします。

- ・デバイス用のドライバファイルを検索します。
- ・〈ファイルのコピー〉画面が表示されます。

8-1 お使いの環境によっては、Windows98のCD-ROMを入れるようにメッセージが表示されます。

- ・この場合は、Windows98のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れて、**OK** をクリックします。
- ・〈ファイルのコピー〉画面が表示されます。

8-2 [ファイルのコピー元]のドライブ名がCD-ROMドライブの「WIN98」ディレクトリであるかを確認し、正しければ **OK** をクリックします。

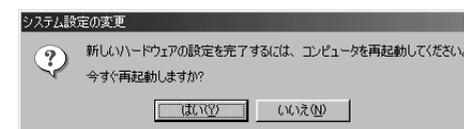
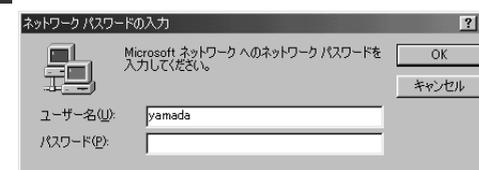
- ・[ファイルのコピー元]のドライブ名がCD-ROMを入れたドライブと異なる場合は、変更します。

MEMO CD-ROMドライブのドライブ名のあとに"win98"ディレクトリを指定してください。
(例)CD-ROMドライブがDドライブの場合

d:*win98

9 インストール完了のメッセージが表示されます。**完了** をクリックします。

- ・コンピュータの再起動を促すメッセージが表示されます。

10 フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、**はい(Y)** をクリックします。**11** 再起動すると、ネットワークへのログオン画面が表示されます。

- ・[ユーザー名]は必ず入力します。
- ・必要であれば、[パスワード]を入力します。パスワードは忘れないようにしてください。

これでWindows98への本製品の導入は完了です。このあと、お使いになるネットワーク環境に合わせて、ネットワークの設定をおこなってください。

32ページからWindows98およびWindows95のピア・ツー・ピアでの設定例を説明しています。参考してください。

本製品はWindows95のプラグ&プレイ機能に対応しています。本製品を取り付けて、Windows95を起動すると自動的にセットアップが開始されます。なお、Windows95のバージョンによってインストールする手順が異なりますので、ご使用の環境にあったインストール手順をお読みください。

セットアップを始める前に、コンピュータ本体のPCIバスに本製品を取り付けておいてください。

・取り付けの手順は15ページをお読みください。

1 コンピュータ本体の電源を入れて、Windows95を起動します。

2 しばらくすると、PCIバスの新しいハードウェアを検出したことを知らせるメッセージが表示されます。

・Windows95のバージョンによって画面Aまたは画面Bが表示されます。

■画面A



■画面B(Windows95 OSR2)



画面Aのとき⇒次ページ **A1** へ進みます。

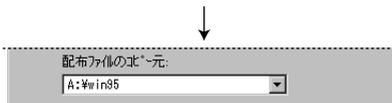
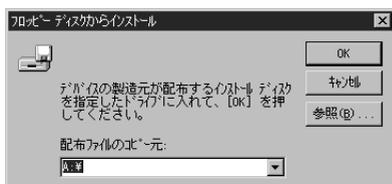
画面Bのとき⇒27ページ **B1** へ進みます。

- A1** 「ハードウェアの製造元が提供するドライバ」が選択されていることを確認し、**OK** をクリックします。



・〈フロッピーディスクからインストール〉画面が表示されます。

- A2** フロッピーディスクドライブに、本製品に付属のフロッピーディスクを入れます。「Win95」ディレクトリを指定してから、**OK** をクリックします。



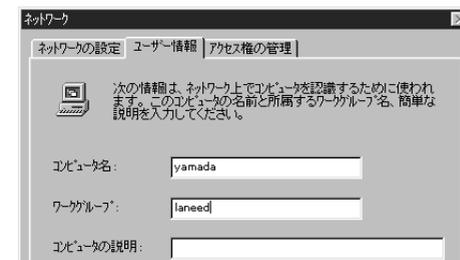
・[配布ファイルのコピー元]が表示されているドライブと異なる場合は変更します。
・ドライバのインストールが始まります。

MEMO コンピュータ名、ワークグループ名の入力を促されたときは...

- ①[コンピュータ名]の入力を促すメッセージが表示されますので、**OK** をクリックします。



- ②【ユーザー情報】タブで[コンピュータ名]と[ワークグループ]を入力します。入力が終われば **閉じる** をクリックします。



コンピュータ名	インストール中のコンピュータに付ける名称を入力します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザーの名前、部署単位で使うコンピュータなら部署名などを入力します。
ワークグループ	インストール中のコンピュータが接続されているネットワークをグループ分けするための名称を付けます。グループ内のコンピュータの[ワークグループ]の名称はすべて同じになります。

- A3** このあとは、30ページの手順 **3-1** へ進みます。

- B1** フロッピーディスクドライブに本製品に付属のフロッピーディスクを入れます。

- B2** **次へ>** をクリックします。



・OSが自動的にドライバを検索します。

B 3 **完了** をクリックします。**B 4** 付属のフロッピーディスクを入れるようにメッセージが表示されます。そのまま、**OK** をクリックします。

・〈ファイルのコピー〉画面が表示されます。

B 5 **[ファイルのコピー元]**がフロッピーディスクドライブになっていることを確認し、**OK** をクリックします。

・〈ドライバファイルを検索する〉画面が表示されます。

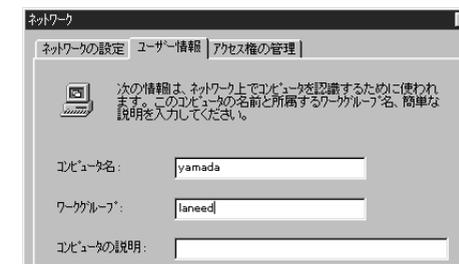
MEMO

コンピュータ名、ワークグループ名の入力を促されたときは...

① **[コンピュータ名]**の入力を促すメッセージが表示されますので、**OK** をクリックします。



② **【ユーザー情報】** タブで**[コンピュータ名]**と**[ワークグループ]**を入力します。入力が終われば **閉じる** をクリックします。



コンピュータ名	インストール中のコンピュータに付ける名称を入力します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザーの名前、部署単位で使うコンピュータなら部署名などを入力します。
ワークグループ	インストール中のコンピュータが接続されているネットワークをグループ分けするための名称を付けます。グループ内のコンピュータの[ワークグループ]の名称はすべて同じになります。

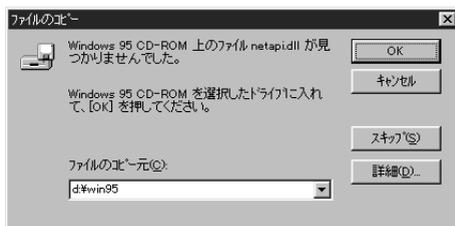
B 6 このあとは、次ページ手順 **3-1** へ進みます。

- 3-1** お使いの環境によっては、Windows95のディスクを入れるようにメッセージが表示されます。



- ・この場合は、Windows95のディスクをドライブに入れて、**OK** をクリックします。
- ・〈ファイルのコピー〉画面が表示されます。

- 3-2** [ファイルのコピー元]のドライブ名とディレクトリ名が正しければ **OK** をクリックします。



- ・[ファイルのコピー元]のドライブ名がディスク入れたドライブと異なる場合は、変更します。

MEMO CD-ROMの場合は、ドライブのドライブ名のあとに"win95"ディレクトリを指定してください。

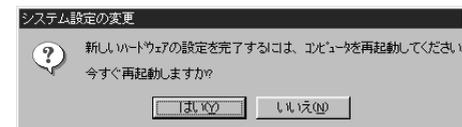
(例)CD-ROMドライブがDドライブの場合

d:\win95

Windows95インストールモデルで、出荷時のまま"WINDOWS\OPTION\CAB"ディレクトリの内容を削除していないときは、このディレクトリから必要なファイルをコピーできます。

注意 ファイルによっては、すでにインストール先に最新のファイルが存在することあります。同名ファイルが見つかったときは、日付の新しいファイルを使用してください。

- 4** 再起動を促すメッセージが表示されます。フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、**はい(Y)** をクリックします。



- 5** 再起動すると、ネットワークへのログオン画面が表示されます。



- ・[ユーザー名]は必ず入力します。
- ・必要であれば、[パスワード]を入力します。パスワードは忘れないようにしてください。

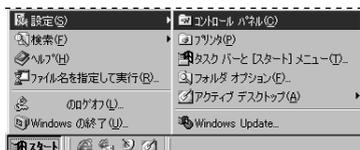
これでWindows95への本製品の導入は完了です。このあと、お使いになるネットワーク環境に合わせて、ネットワークの設定をおこなってください。

32ページからWindows98およびWindows95のピア・ツー・ピアでの設定例を説明しています。参考にしてください。

ここでは、Windows98およびWindows95のネットワークでよく利用されるピア・ツー・ピア環境の設定例を説明します。なお、画面例はWindows98を使用しています。

1 Windows98またはWindows95を起動しておきます。

2 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順に選択し、コントロールパネルを開きます。



- ・ [マイコンピュータ]→[コントロールパネル]の順に開いてもかまいません。
- ・ コントロールパネルが開きます。

3 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



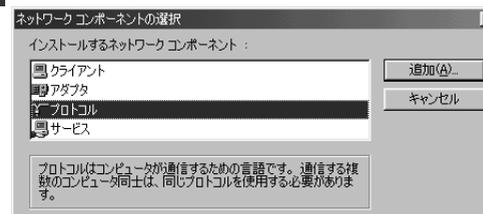
- ・ <ネットワーク> 画面が表示されます。

4 [ネットワークの設定] タブにある [追加(A)...] をクリックします。



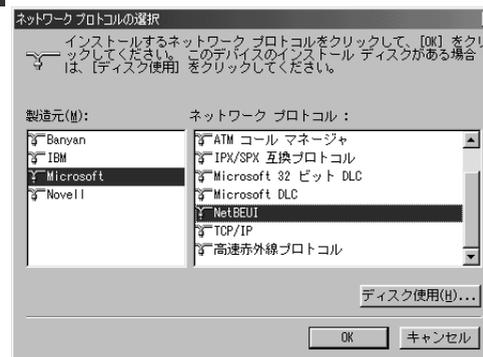
- ・ Windows95では、<ネットワーク構成ファイルの追加> 画面が表示されます。

5 [プロトコル]を選択します。



- ・ [プロトコル]を選択し、 [追加(A)...] をクリックします。
- ・ <ネットワークプロトコルの選択> 画面が表示されます。

6 NetBEUIを選択します。

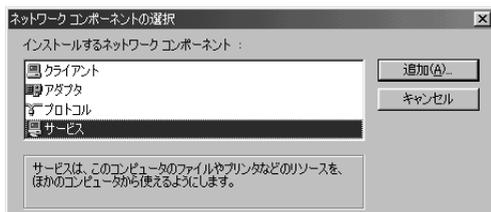


- ・ [製造元]で"Microsoft"をクリックします。プロトコルが表示されます。
- ・ "NetBEUI"を選択します。
- ・ 続いて [OK] をクリックします。

7 プロトコルが追加されました。確認してください。



- ・ [現在のネットワークコンポーネント(構成)]に"NetBEUI"が追加されます。

8 サービスを選択します。

- ・ [サービス]を選択し、 **追加(A)** をクリックします。
- ・ <ネットワークサービスの選択> 画面が表示されます。

9 サービスの内容を選択します。

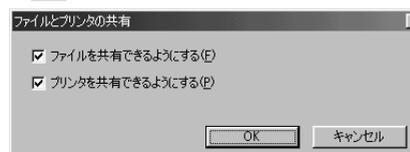
- ・ Windows95では、まず[製造元]で"Microsoft"を選択します。[ネットワークサービス]の内容が表示されます。
- ・ "Microsoftネットワーク共有サービス"を選択します。
- ・ 続いて **OK** をクリックします。

10 サービスが追加されました。確認してください。

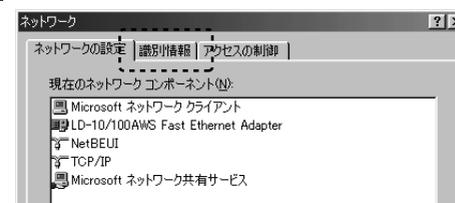
- ・ [現在のネットワーク構成]に"Microsoftネットワーク共有サービス"が追加されています。

11 次に[ファイルとプリンタの共有]をクリックします。

- ・ <ファイルとプリンタの共有> 画面が表示されます。

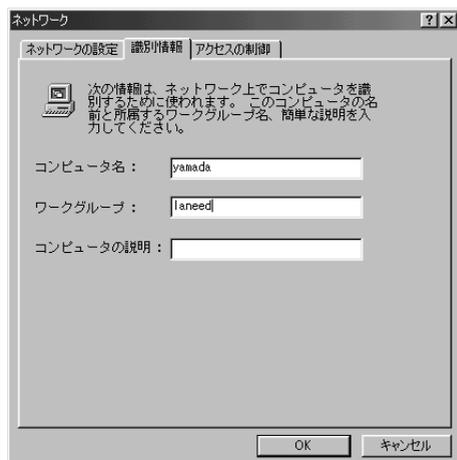
12 "ファイルを共有..." "プリンタを共有..."のチェックボックスを、両方ともチェックします。

- ・ **OK** をクリックします。

13 【識別情報】タブ(Windows95では【ユーザー情報】タブ)をクリックします。

- ・ <識別情報(ユーザー情報)> 画面が表示されます。

- 14** 内容を確認し、変更が必要な場合は[コンピュータ名]と[ワークグループ]を入力します。



- ・項目の意味については、21ページを参照してください。
- ・ **OK** をクリックします。

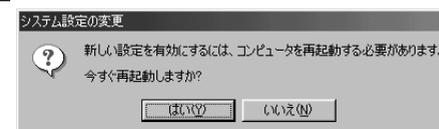
ディスク挿入を促すメッセージが表示されたときは、ディスクを挿入します。



- ・ Windows98では"Windows98 CD-ROM"を挿入します。
- ・ Windows95では"Windows95 CD-ROM"またはフロッピーディスクのいずれかのディスクを挿入します。
- ・ **OK** をクリックします。

MEMO ディスクを挿入したドライブを指定する画面が表示されたときは、Windows98の場合は22ページの **8-2** を、Windows95の場合は30ページの **3-2** を参考に指定します。

- 15** 再起動するかメッセージが表示されます。



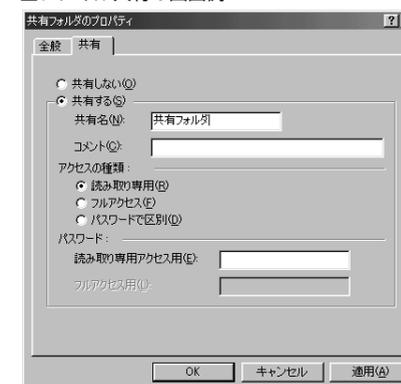
- ・ **はい** をクリックします。

再起動すると、今回設定した内容が有効になります。

MEMO ファイルやプリンタを共有するには、ネットワークが有効になってから次の手順で共有設定をおこなってください。

- ①共有したいファイルのあるフォルダやプリンタのアイコンを右クリックで選択し、メニューを表示します。
- ②メニューから[共有]を選択し、必要な事項を設定します。

■ファイル共有の画面例



すでにWindowsNT4.0がインストールされた状態で、本製品をセットアップする方法を説明しています。ご使用になるコンピュータのシステムにネットワーク設定が存在するかしないかでセットアップの流れが異なりますので、説明と表示される画面に注意しながらセットアップしてください。

注意 WindowsNT4.0と同時にセットアップするとき

WindowsNT4.0はインストール中にネットワークアダプタの設定が可能です。WindowsNT4.0オペレーションシステムのマニュアルを参照しながら、このマニュアルの39ページからの手順 **5B** ~ **9** を参考にインストールしてください。ドライバの選択では、"Laneed LD-10/100AWS Fast Ethernet Adapter"を選択してください。

コンピュータ本体の電源を入れる前に、本製品をコンピュータに取り付けておきます。

- ・取り付けの手順は15ページをお読みください。

1 コンピュータ本体の電源を入れて、WindowsNT4.0を起動します。

- ・WindowsNT4.0へのログオン画面が表示されます。

2 "Administrator"でログオンします。

- ・WindowsNT4.0が起動します。

3 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を選択し、〈コントロールパネル〉ウィンドウで、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



- ・〈ネットワーク〉画面が表示されます。

4 既存の環境によって画面AまたはBが表示されます。

画面A



画面Aのとき

⇒このあとの手順 **5A** を読んでから、次ページの手順 **6** へ進んでください。

画面Bのとき

⇒このあとの **5B** を読んでから、41ページの手順 **8** へ進んでください。

画面B



5A そのシステムにはじめてネットワークを導入するときは、以下の画面が表示されます。



- ・ **はい(Yes)** をクリックします。次ページの手順 **6** へ進みます。

5B 【アダプタ】タブを選択し、 **追加(A)...** をクリックします。



- ・〈ネットワークアダプタの選択〉画面が表示されます。
- ・41ページの手順 **8** へ進んでください。

6 [ネットワークに接続]をチェックし、**次へ(N) >** をクリックします。



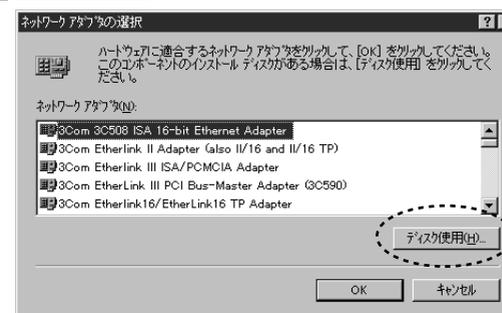
・アダプタの選択画面が表示されます。

7 **一覧から選択(S)...** をクリックします。



・〈ネットワークアダプタの選択〉画面が表示されます。

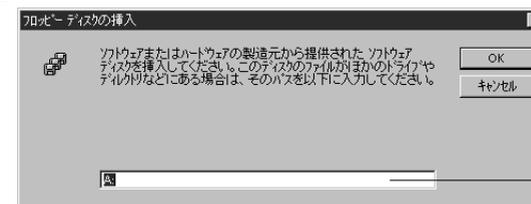
8 **ディスク使用(D)...** をクリックします。



・〈フロッピーディスクの挿入〉画面が表示されます。

9 フロッピーディスクドライブに本製品に付属のドライバディスクを挿入します。

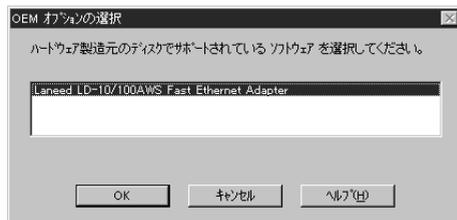
10 フロッピーディスクドライブのドライブ名を確認し、**OK** をクリックします。



— フロッピーディスク
ドライブのドライブ名

- ・表示されているドライブ名がフロッピーディスクドライブと異なる場合は変更します。
- ・〈OEMオプションの選択〉画面が表示されます。

- 11** "Lanecd LD-10/100AWS Fast Ethernet Adapter"を選択し、 をクリックします。



・はじめてネットワークを導入しているときはアダプタの選択画面に戻ります。

すでに一度ネットワークが設定されていると詳細設定の画面が表示されます。その場合は、48ページ「ネットワークが設定されているときの手順」へ進んでください。

- 12** [ネットワークアダプタ]で、"Lanecd LD-10/100AWS Fast Ethernet Adapter"がチェックされていることを確認し、 をクリックします。



・ネットワークプロトコルを選択する画面が表示されます。

- 13** ネットワークで使用するプロトコルを一覧でチェックします。チェックが終われば、 をクリックします。



・どのプロトコルを使用するかは、ご使用になるネットワーク環境に合わせてお選びください。
・ネットワークサービスを選択する画面が表示されます。

- 14** ネットワークで使用するサービスを一覧でチェックします。チェックが終われば、 をクリックします。



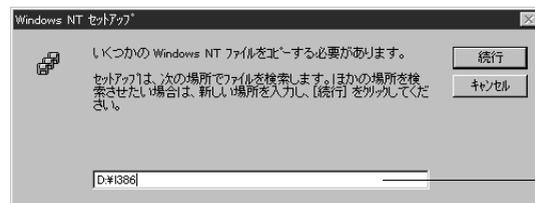
・どのサービスを使用するかは、ご使用になるネットワーク環境に合わせてお選びください。

15 プロトコルおよびサービスのインストールを確認する画面が表示されます。

[次へ(N)] > をクリックします。

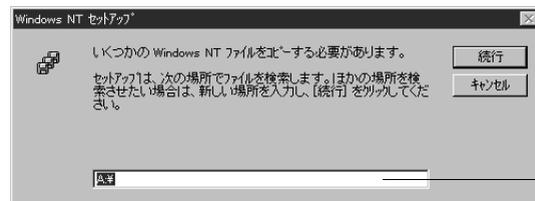


・インストールファイルのドライブ名とディレクトリ名を指定する画面が表示されます。

16 WindowsNT4.0のオペレーションディスクのドライブ名とディレクトリ名を指定します。 [続行] をクリックします。

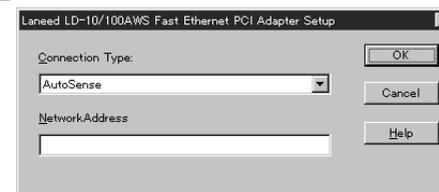
"I386"ディレクトリを指定

・ WindowsNT4.0のオペレーションディスクで"I386"ディレクトリを指定します。
 ・ もう一度、インストールファイルのドライブ名とディレクトリ名を指定する画面が表示されます。

17 フロッピーディスクドライブのドライブ名を指定し、 [続行] をクリックします。

フロッピーディスクドライブのドライブ名

・ 詳細設定の画面が表示されます。

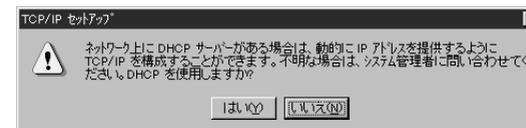
18 必要に応じて項目を設定します。 [OK] をクリックします。**●Connection Type**

AutoSense	接続環境を自動的に判別します。
100Base-Tx	100BASE-TX(Half Duplex)環境。
100Base-Tx Full_Duplex	100BASE-TX(Full Duplex)環境。
10Base-T	10BASE-T(Half Duplex)環境。
10Base-T Full_Duplex	10BASE-T(Full Duplex)環境。

●Network Address

本製品を2枚以上ご使用の場合などに、本製品のMACアドレスを入力します。MACアドレスは本製品の基板上に貼られたシールに記載されている16進数の数字です。

MACアドレスのシール (記載されている英数字は製品ごとに異なります)

プロトコルでTCP/IPを選択した場合は、DHCPを使用するかを確認する画面が表示されます。

・ ご利用になるネットワーク環境に合わせて、 [はい(Y)] または [いいえ(N)] をクリックします。
 ・ バインド等を変更するための画面が表示されます。

19 必要に応じて内容を変更します。よろしければ **次へ(N) >** をクリックします。



・ネットワークの導入が完了したことを知らせるメッセージが表示されます。

20 **次へ(N) >** をクリックします。



・ワークグループ名などを設定する画面が表示されます。

21 必要に応じて入力し、 **次へ(N) >** をクリックします。



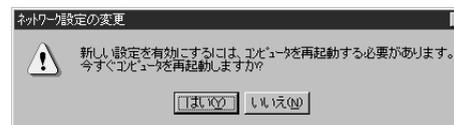
・インストール完了のメッセージが表示されます。

22 **完了** をクリックします。



・再起動のメッセージが表示されます。

23 フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、 **はい(Y)** をクリックします。



・WindowsNT4.0が再起動します。

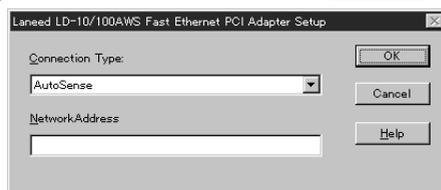
これで、本製品のWindowsNT4.0への導入は完了です。

ネットワークが設定されているときの手順

すでにネットワークが設定されている環境へ本製品のドライバをインストールした場合の42ページの手順 **11** の続きを説明します。

42ページの手順 **11** の〈OEMオプションの選択〉画面で、"Laneed LD-10/100AWS Fast Ethernet Adapter"を選択し、**OK** をクリックすると、ドライバの詳細設定画面が表示されます。

12 必要に応じて項目を設定します。**OK** をクリックします。



●Connection Type

AutoSense	接続環境を自動的に判別します。
100Base-Tx	100BASE-TX(Half Duplex)環境。
100Base-Tx Full_Duplex	100BASE-TX(Full Duplex)環境。
10Base-T	10BASE-T(Half Duplex)環境。
10Base-T Full_Duplex	10BASE-T(Full Duplex)環境。

●Network Address

本製品を2枚以上ご使用の場合などに、本製品のMACアドレスを入力します。MACアドレスは本製品の基板上に貼られたシールに記載されている16進数の数字です。

MACアドレスのシール (記載されている英数字は製品ごとに異なります)

13 [ネットワークアダプタ]にLaneed LD-10/100AWS Fast Ethernet Adapterと表示されていれば、ドライバのインストールは完了です。



続いて、必要なネットワーク環境の設定をおこないます。このあとは、設定の流れを説明します。実際の構成に合わせて設定してください。

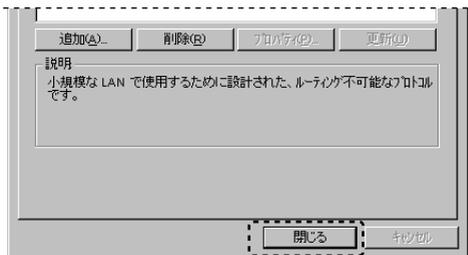
14 [サービス] タブをクリックして、必要なサービスを追加します。



15 [プロトコル] タブをクリックして、必要なサービスを追加します。

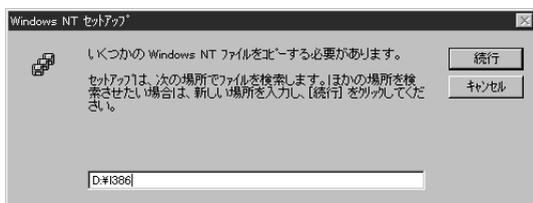


16 すべての設定が終われば、〈ネットワーク〉画面の **閉じる** をクリックします。

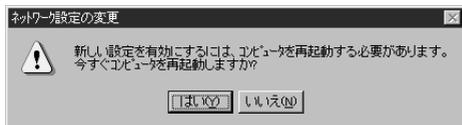


・ファイルのコピーが始まります。

WindowsNT4.0のオペレーションシステムのCD-ROMを入れるようにメッセージが表示された場合は、WindowsNT4.0の"i386"ディレクトリを指定し、**続行** をクリックします。



17 ファイルのコピーのあと、再起動のメッセージが表示されます。フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出します。



・ **はい** をクリックします。
 ・ WindowsNT4.0が再起動し、設定した内容が有効になります。

これで、WindowsNT4.0へのセットアップは終わりです。

本製品には、Windows98/95およびWindowsNT4.0以外にも各種ネットワークOSに対応するドライバが付属します。ドライバおよびインストール手順は本製品に付属のドライバディスクに収められています。それぞれのOSのドキュメントをご覧ください、インストールをおこなってください。

■付属ディスクの内容

(出荷時期により多少内容が異なることがあります)

- Diag 診断プログラム概要テキスト
- Mslanman.dos
 - Drivers
 - Ethernet
 - Ldaws MS-LanManagerドライバ
 - Nif MS-LanManager NIFファイル
- Ndis2
 - Dos NDIS2ドライバ、NIFファイル他
 - Msnif NIFファイル
- Ndis3 NDIS3ドライバ
- Ndis4 NDIS4ドライバ
- NetWare
 - 32bitlan Client32関連ファイル、インストールテキスト
- Nt351 WindowsNT3.51用INFファイル、インストールテキストほか
- Nt40 WindowsNT4.0用INFファイル、インストールテキスト
- Pktdrv パケットドライバほか
- w95b_98 Windows95(ver.B/C)/98 インストールテキスト
- Win95 Windows95用INFファイル、インストールテキスト

●ルートディレクトリにあるファイル一覧

- | | | | |
|------------|------------|-----------|--|
| Diag.exe | Ipxodi.com | Ldaws.com |) 診断プログラム関連ファイル、NetWare Client用ファイル、ドライバほか |
| Ldcdfl.ins | Lsl.com | Net.cfg | |
| Netx.exe | pcinfo.exe | | |
| netinf.inf | | | oemsetnt.inf data インストール用関連ファイル |

Windows98、Windows95およびWindowsNT4.0におけるアダプタのプロパティについて説明します。初期値は一般的に最適な状態に設定されていますので、通常は変更しないでください。

Windows98/95の場合

- ① [コントロールパネル]で、[ネットワーク]アイコンを開きます。
- ② <ネットワーク> 画面の【ネットワークの設定】タブで"Laneed LD-10/100AWS Fast Ethernet Adapter"を選択し、[プロパティ]をクリックします。
- ③ 【詳細設定】タブを選択すると、設定画面が表示されます。

■ <詳細設定> 画面



[プロパティ]の項目を選択すると、右側の内容が項目に合わせて切り替わります。

● Connection Type

AutoSense	接続環境を自動的に判別し、最適な状態に設定します。
100Base-TX	100BASE-TX(Half Duplex)環境に設定します。
100Base-TX Full Duplex	100BASE-TX(Full Duplex)環境に設定します。
10Base-T(Twisted Pair)	10BASE-T(Half Duplex)環境に設定します。
10Base-T Full Duplex	10BASE-T(Full Duplex)環境に設定します。

● Network Address

本製品を2枚以上お使いになる場合などに、本製品のMACアドレスを入力します。1枚の場合は、「なし」を選択します。MACアドレスは本製品の基板上に貼られたシールに記載されている16進数の数字です。[値]の横にあるラジオボタンを有効にして、MACアドレスを入力します。

MACアドレスのシール この数値は一例です。

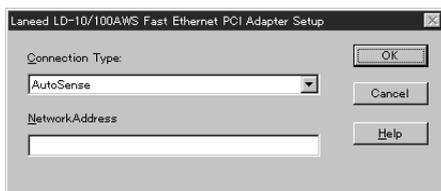
● Store And Forward

Store & Forward方式を使用するかどうかを設定します。[値]で「Enabled」を選択すると使用します。「Disabled」を選択すると使用しません。

WindowsNT4.0の場合

- ① [コントロールパネル]で、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
- ② <ネットワーク> 画面の【アダプタ】タブで"Lnnead LD-10/100AWS Fast Ethernet Adapter"と表示されたアダプタを選択し、[プロパティ]をクリックすると、設定画面が表示されます。

■ <詳細設定> の画面



● Connection Type

AutoSense	接続環境を自動的に判別します。
100Base-Tx	100BASE-TX(Half Duplex)環境。
100Base-Tx Full_Duplex	100BASE-TX(Full Duplex)環境。
10Base-T	10BASE-T(Half Duplex)環境。
10Base-T Full_Duplex	10BASE-T(Full Duplex)環境。

● Network Address

本製品を2枚以上ご使用の場合などに、本製品のMACアドレスを入力します。MACアドレスは本製品の基板上に貼られたシールに記載されている16進数の数字です。

MACアドレスのシール (記載されている英数字は製品ごとに異なります)

付属のディスクには、本製品が正常に動作しているかをDOS画面上から調べることができる診断プログラム機能があります。必要に応じてお使いください。

注意

Windows98/95上の[スタート]→[プログラム]→[MS-DOSプロンプト]で表示されたDOS画面(DOS窓)から実行すると正常に動作しなかったり、ハングアップしたりします。この方法では起動しないでください。WindowsNT4.0でも同様です。WindowsNT4.0環境の場合は、直接DOSを起動することができません。Windows98/95またはDOS/Vのシステムディスクを作成して、そのディスクから起動してください。

1 DOSプロンプトの画面を表示します。

●Windows98/95の場合は、次の方法でDOS画面を表示します。

- ・システム起動時のDOS画面で[F8]を押し、「DOSプロンプト」を選択する。
- ・Windows98/95を起動後、[スタート]→[Windowsの終了]で、「MS-DOSモードで起動する」を選択して再起動します。

2 USモードに変更します。「US」と入力し、[Enter]を押します。

```
C: ¥>us [Enter]
A: />
```

- ・USモードに切り替わります。

3 カレントドライブをフロッピーディスクドライブに変更します。

```
C: />a: [Enter]
```

4 「diag」と入力し、[Enter]を押します。

```
A: />diag [Enter]
```

- ・診断プログラムが起動します。

5 起動画面で **[Enter]** を押します。

```

Welcome to the Diagnostic program for the ELECOM LD-10/100AWS
network adapter. The Diagnostic program can be used to run adapter
diagnostics and to view the current configurations setting of your
LD-10/100AWS adapter card.

To prevent conflict from arising between your ELECOM LD-10/100AWS
network adapter and other interface cards in your computer, be certain
to select unique card settings for the LD-10/100AWS network card.

If you have loaded other drivers related to the LD-10/100AWS
network adapter previously, then reboot your computer to clear the
drivers from memory before continuing.

You are now ready to start with diagnostics program. Press Enter
to continue.
To exit, press Esc.

```

- ・アダプタの選択画面が表示されます。

6 診断するアダプタを選択し、 **[Enter]** を押します。

```

----- Select Adapter Menu -----
CARD_NO  NODE_ID  BUS_NO  SLOT_NO  I/O  IRQ
-----  -
1  00 90 FE F6 E9 5A  0  17  F800H  10

```

- ・本製品を2枚以上接続しているときは、**[↑]****[↓]**で診断するアダプタを選択します。

7 画面左に現在の環境、画面右に診断メニューが表示されます。

```

----- Your Current Configuration -----
Node ID ..... 00 90 FE F6 E9 5A
Bus Mode ..... PCI 32-bit
Card Type ..... LD-10/100AWS
Connector Type ..... TP
I/O Base Address ..... F800H
Interrupt Number ..... 10

```

```

----- Diagnostic Menu -----
Adapter Basic Diagnostic
Network Diagnostic

```

●Your Current Configuration(現在の設定状態)

Node ID	ノードIDを表示します。
Bus Mode	本製品が接続されているバスの種類を表示します。
Card Type	本製品の名称を表示します。
Connector Type	本製品の接続環境を表示します。
I/O Base Address	本製品が使用しているI/Oポートアドレスを表示します。
Interrupt Number	本製品が使用するIRQを表示します。

●Diagnostic Menu(診断メニュー)

Adapter Basic Diagnostic	本製品の自己診断テストをおこないます。
Network Diagnostic	ネットワークの診断テストをおこないます。本製品が2枚必要です。

診断方法については、以下の項目説明をお読みください。

⇒診断プログラムを終了するときは、前ページの手順 **7** の画面を表示して、**[Esc]**を押します。

- ・各画面で**[Esc]**を押すと、ひとつ前の画面に戻ります。

●アダプタの基本診断

診断メニューで[Adapter Basic Diagnostic]を選択すると、本製品の自己診断テストをおこないます。

①[Adapter Basic Diagnostic]を選択し、**[Enter]**を押します。

```

----- Diagnostic Menu -----
Adapter Basic Diagnostic
Network Diagnostic

```

- ・自己診断テストをする項目が表示されます。

②自己診断テストをしたい項目を選択し、**[Enter]**を押します。

```

----- Test Items Setup Menu -----
[X] Serial ROM Test
[x] Controller Internal Loopback Test

```

- ・[X]の項目がテストを実行する項目です。
- ・**[↑]****[↓]**で項目を移動します。**[スペース]**を押すたびにテストをする([X]の状態)とテストをしない([]の状態)が切り替わります。

Serial ROM Test	シリアルROMの伝送が正常におこなわれているかをテストします。
Controller Internal Loopback Test	エンコーダ出力からデコーダ入力までの送受信をテストします。

③テスト画面が表示され、テストが開始されます。

```

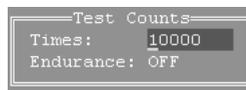
----- Test Results -----
Serial ROM Test .....PASS
Controller Internal Loopback Test .....
1

```

- ・「PASS」はテストが正常に終了したことを示します。「FAIL」はテストエラーを示します。

- ・テストは繰り返しおこなわれます。[Esc]を押すと終了します。
- ・テストで異常があった場合は、60ページ「付録1.こんなときは」をお読みください。

MEMO 手順①の画面の状態で、[F6]を押すとテスト回数を指定することができます。初期値は1000回です。



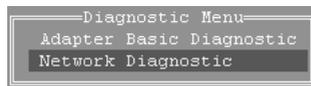
●ネットワークの診断

診断メニューで[Network Diagnostic]を選択すると、ネットワークの診断テストをおこないます。この診断テストをおこなうには、本製品を取り付けたコンピュータを2台用意し、イーサネットケーブルで接続します。

注意 本製品を取り付けた2台のコンピュータは、HUBを経由して接続してください。クロスケーブルによる接続では、正常な診断ができないことがあります。

●本製品を取り付けた2台のコンピュータで、診断プログラムを起動します。

①[Network Diagnostic]を選択し、[Enter]を押します。



・テストの実行側と受け側を選択する画面が表示されます。

②どちらか一方を「As a Master(実行側)」、もう一方を「As a Slave(受け側)」に設定します。



・[↑][↓]を押すと切り替わります。

③設定が終われば、[Enter]を押します。
 ・診断テストが始まります。
 ・[Esc]を押すと、診断テストを終了します。

■ネットワークの診断テストの画面イメージ

Slave Status	
Node ID	00 90 FE 12 00 00
I/O Base Address : 1400	Test started at : 10:26:36
Interrupt Number : 11	Current time : 10:26:37
Transmit Packet Length	546
Transmit Packet Counter	974
Transmit Time Out Counter	0
Received Packet Length	546
Received Packet Counter	974
Received Error Counter	0
No Response Counter	0
Data Mismatch Counter	0

①	Transmit Packet Length	送信したパケットの長さ
②	Transmit Packet Counter	送信したパケットの数("10000"で終わり)
③	Transmit Time Out Counter	タイムアウトしたパケット数
④	Received Packet Length	受信したパケットの長さ
⑤	Received Packet Counter	受信したパケットの長さ
⑥	Received Error Counter	受信できなかったパケットの数
⑦	No Response Counter	送/受信できなかったパケットの数
⑧	Data Mismatch Counter	データの長さが送信側と受信側で合わなかった数

※備考 ①はひとつずつ増えます。②は⑤+⑦の数値です。

・テストに異常があった場合は、次ページ「付録1.こんなときは」をお読みください。

共通のトラブル

- **本製品をコンピュータに取り付けたところ、コンピュータ本体が全く起動しなくなった。**

現在のご使用中のコンピュータですでに使用しているIRQ、I/Oポートアドレスと本製品のIRQが競合しているか、コンピュータに本製品を使用するために必要なIRQの空きがないものと考えられます。コンピュータ本体のマニュアルなどを参考にして、IRQ、I/Oポートアドレスの空きを確保してください。

- **LINKランプが点灯しない。**

- ① HUBなどにケーブルが正しく接続されているかを確認してください。
HUBに接続している場合、ストレートケーブルで接続していますか？
コンピュータ本体どうしを直結している場合、クロスケーブルで接続していますか？
- ② ケーブルの接続などに問題がない場合は本製品の設定を確認してください。
Windows98/95のコントロールパネルのデバイスマネージャや、WindowsNT4.0のイベントビューア等で本製品の動作にエラーが発生していないかを確認してください。

- **診断プログラム"diag.exe"を実行したが、診断プログラムの画面が正常に表示されない。**

MS-DOSの日本語モードで実行している可能性があります。"diag.exe"は英語モードでご使用ください。⇒55ページ参照

- **本製品を取り付け"diag.exe"を実行したが、「ボード(本製品)が見つからない」というエラーが出る。**

本製品をセットアップしたコンピュータに、同じIRQを使用するデバイスが存在している可能性があります。現在、コンピュータに接続しているデバイスのIRQの値を確認してください。競合するデバイスがある場合は、そのデバイスを取りはずすか、コンピュータ本体のメーカーに御相談ください。

Wake on LAN機能でのトラブル

- **Wake on LAN機能が使えない。**

以下のことを確認してください。

- ① 起動させるコンピュータ本体に本製品を取り付けていますか。
- ② 起動させるコンピュータ本体がWake on LANに対応していますか。対応している場合は、本製品とコンピュータのマザーボードの間を付属のWake on LAN用ケーブルで接続していますか。
- ③ コンピュータ本体のBIOS設定で、Wake on LAN機能を有効(Enabled)に設定していますか。
- ④ 送信側から起動したいコンピュータに対して、Wake up Packetを送信していますか。

これらのことについて詳しい説明は、12ページ「Wake on LANについて」をお読みください。

Windows98/95/NT環境でのトラブル

- **Windows98/95でプラグ&プレイでセットアップしたが、本製品を正常に認識できない。**

お使いのコンピュータでIRQが競合しているか、IRQの空きがないことが原因と考えられます。IRQに空きがないと、本製品をプラグ&プレイの状態でご使用いただくことはできません。コンピュータ本体のマニュアルなどを読んで、IRQの使用状況を確認してください。

- ・ Windows95上での使用可能なIRQの確認方法
[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]からコンピュータのプロパティを見て、割り込み要求 (IRQ) のボタンをチェックして一覧で確認します。
- ・ WindowsNT上での使用可能なIRQの確認方法
メニューバーの[スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→[WindowsNT診断プログラム]を起動し、リソースのタグを選択します。一覧に表示されているIRQは他のデバイスに使用されています。本製品に割り当ててはできません。

● **本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークコンピュータを開くと「ネットワークを参照できません。」のエラーが表示される。**

- ① 正常にネットワークの設定ができていない可能性があります。もう一度、本製品の設定を確認し、OS側が本製品を正常に認識しているか調べてください。

・ Windows98/95上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]から[ネットワークアダプタ]をダブルクリックし、本製品のドライバが正常に動作しているかを確認してください。また、[デバイスマネージャ]で[その他のデバイス]の項目があれば、ダブルクリックし、ドライバ名を確認してください。もし本製品のドライバが組み込まれていたら削除して再起動してください。

・ WindowsNT上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
メニューバーの[スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→[WindowsNT診断プログラム]を起動し、【リソース】タブを選択します。一覧に表示されているデバイスのなかに"LD-10/100AWS"があれば本製品は正常に動作しています。異常があれば、本製品の設定を確認し、一度ドライバを削除の上、ドライバを再度組み込んでください。

- ② ケーブル、HUB、ターミネータなどを確認してください。
(現在、正常に動作しているケーブルがあれば交換してみてください。HUBの接続ポートを変更してください。)
- ③ 可能であれば、本製品を取り付けているPCIバススロットを変更してください。

● **本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークを参照できない。もしくは、使用しているコンピュータしか表示されない。**

- ① ネットワーク接続に必要なプロトコルなどの設定が、使用するネットワーク環境に合った設定になっているかを確認してください。
- ② [スタート]→[検索]の[ほかのコンピュータ]を起動し、ターゲットのコンピュータのコンピュータ名を入力し検索してみてください。

● **Windows98/95で「DHCPサーバーが見つかりません」と表示される。**

このメッセージはエラー表示ではありません。使用しているネットワーク環境で「DHCPサーバ」が存在しない場合に表示されます。DHCPサーバとは、ネットワークプロトコルとしてTCP/IPを使用する場合、各コンピュータに必要なIPアドレスを自動的に割り当てるサーバです（通常はWindowsNTサーバやルータが設定によりおこなっています）。

Windows98/95環境のネットワークでTCP/IPを使用した場合の初期設定では「DHCPサーバ」を使用して、IPアドレスを割り当てるようになっていません。使用しているネットワーク環境にDHCPサーバが存在しない場合や見つからない場合に、上記メッセージが表示されます。実際にDHCPサーバを設定していない場合は、このメッセージが表示されたとき、今後このメッセージを表示しないように、[NO]をクリックしてください。また、TCP/IPの設定をおこなう場合は特別な知識を必要とすることもあります。IPアドレスの設定がわからないときはシステム管理者に相談するか、TCP/IPのプロトコルを使用しないでネットワークを構築してください。ただし、TCP/IPを使用しない場合は、他のプロトコル(NetBEUIなど)を追加してください。

● **Windows98/95やWindowsNTで本製品の設定をおこなった場合、フロッピーディスクまたはCD-ROMを要求されてしまう。**

ネットワークの設定に必要なファイルは、弊社提供のドライバの他にWindows98/95またはWindowsNT側で提供されるファイルも含まれています。このような場合は、表示されるメッセージに従って、Windows95またはWindowsNTのフロッピーディスクかCD-ROMをドライブにセットし、そのドライブのパスを指定してください。

例① Windows95のフロッピーディスクを使用する場合
(Windows95が要求している番号のフロッピーをセットして)
A: ¥

例② Windows95のCD-ROMを使用する場合
<CD-ROMのドライブ名>: ¥WIN95

例③ WindowsNTの場合
<CD-ROMのドライブ名>: ¥I386

※Windows95プリインストール（最初からインストールしてある）の機種に関してはパスの指定を c:¥Windows¥Options¥Cabs と変更してください。インストールできない場合は、コンピュータ本体のメーカーにおたずねください。

● **Windows95でネットワークに接続したが、ファイルやプリンタの共有ができない。**

ネットワークには接続できて相手側へ入れるようになったが、相手側のドライバやプリンタの使用ができないときは次の点を確認してください。

- ① [ネットワークコンピュータ]→[プロパティ]→「ネットワーク構成の一覧」に「Microsoft ネットワーク共有サービス」が組み込まれているかを確認してください。
組み込まれていない場合は[ファイルとプリンタの共有]のチェックボックスをクリックして、チェックし、[OK]を押してください。⇒35ページ参照
- ② 共有したいフォルダやプリンタに共有設定をおこなっているかを確認してください。共有の方法は次のようにしてください。
 - ・共有したいフォルダやプリンタで右クリックをしてメニューを表示します。
 - ・共有という項目を選択し、「共有しない」になっている設定を「共有する」に変更して[OK]をクリックしてください。

● **診断プログラム"diag.exe"を実行したが正常に動作しない。またはハングアップしてしまう。**

診断プログラム"diag.exe"は必ず、MS-DOSまたはWindows98/95をMS-DOSモードで起動し、英語モードにしてから実行します。Windows98/95の[プログラム]にある[DOSプロンプト]上では実行しないでください。弊社診断プログラムは上記環境でしか動作いたしませんのでご注意ください。

⇒55ページ参照

● **WindowsNT4.0で本製品を使用しているが、本製品の設定をマニュアル通りにしたが、正常に使用できない。**

以下の原因が考えられます。

- ①61ページ「Windows98/95/NT環境でのトラブル」の最初の2項目を参照してください。
- ②ネットワーク接続に必要なプロトコル等の設定が間違っている。
 - ・ネットワークに接続するためには本製品の設定以外にもプロトコルやサービス等の各種設定が必要となります。接続するネットワーク環境を確認してください。ネットワーク環境が不明な場合はネットワークの管理者に相談してください。

NetWare 環境でのトラブル

● **ドライバの組み込みにエラーメッセージを表示し、正常に起動しない。**

NetWareの各バージョンはネットワーク関係のものだけでなく、多くのパッチモジュールがあります。バージョンにもよりますが、最新のパッチモジュールを入手しないと正常に動作しないものもあります。確認の上、必要であれば最新のモジュール等をNevell(株)より入手して動作確認をしてください。

また、本製品をMS-DOSでNetWareサーバに接続する場合、Clientの設定に必要なファイル (LSL.COMとIPXODI.COM) は、本製品に付属のドライバディスクに添付されています (¥nwclientの中にあります)。このファイルは、お客様の任意のもとに、使用することも可能です。

使用方法は、最初にNetWareClientのインストールをおこない、そのあとでClientをインストールしたディレクトリ (通常はC:¥nwclient) に上記のファイルを上書きコピーしてください。

● **サーバにアタッチはできたが、ログインができない。**

- ①「GUEST」でログインしてみてください。
- ②ネットワーク管理者にご相談し、ユーザーアカウントを確認してください。

● **NetWare4.xサーバに接続できないコンピュータがある。**

Windows95は、標準ではNetWare4.1のNDSに対応していません。サーバでバインダリーエミュレーションを設定するか、Client側にNovell社が提供する「NetWare Client32 for Windows95」をインストールしてください。

● **ネットワーク上の複数のファイルサーバが、お互いに認識できない。**

ネットワークアドレスやインターネットアドレスが衝突している可能性があります。全てのファイルサーバは同じネットワーク番号を使用する必要がありますが、内部ネットワーク番号とステーションアドレスは固有でなければなりません。設定を確認してください。

サポートサービスについて

ラニード製品のサポートサービスについては、下記のラニード・サポートセンターへお電話またはFAXでご連絡ください。また、FAX情報によるサービス、ネット上によるオンラインサービスも提供しています。なお、サポートセンターでサービスを受けるために、あらかじめ本製品に添付されているユーザ登録カードをご投函くださいますようお願いいたします。修理品の送り先については、9ページをご覧ください。

●ラニード・サポートセンター

TEL : 03-3444-5571 FAX : 03-3444-8205

受付時間：月～金曜日 10:00～12:00 13:00～17:00
(夏期・年末年始特定休業日、祝祭日は除きます)
※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●インターネット

<http://www.elecom-laneed.com>

●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。
ガイダンスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

メインメニューBOX番号(提供している情報の一覧がFAXされます)

559900

電話番号

東京：03-3940-6000 大阪：06-6455-6000
名古屋：052-453-6000 福岡：092-482-6000
札幌：011-210-6000 仙台：022-268-6000
広島：082-223-6000

●修理の依頼

本製品が故障した場合には、故障した製品と保証書に、故障状況を記入したものを添えて、下記までご連絡ください。

保証期間内

まずは、上記のラニード・サポートセンターまで電話またはFAXでご連絡ください。

保証期間外

東京都八王子市子安町4-19 セキエレクトロニクス株式会社内
エレコム修理センター
電話番号 03-5950-4410
電話受付 月曜日～金曜日 10:00～12:00 13:00～16:00
(ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日を除く)

●サポートセンターへお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に次の事項を確認してください。

- ・このマニュアルの60ページ「付録1.こんなときは」をお読みになりましたか。まだ、お読みでない場合は、お電話の前にお読みください。
- ・システムを起動できる場合は、起動した状態でお電話ください。
- ・異常のある製品を取り付けたコンピュータの前から会話が可能な場合は、コンピュータの前からお電話をおかけください。実際に操作しながらチェックできますので、解決しやすくなります。
- ・FAXを送られる場合は、付属の別紙「トラブルシート」に、できるだけ詳しい内容をご記入ください。

次のことをお調べください。

●ネットワーク構成

使用しているネットワークアダプタ：
使用しているOS：
使用しているコンピュータ本体(メーカーおよび型番)：
ネットワークを構成するコンピュータの台数とOSの構成：
ネットワークを構成するその他の関連機器(HUB、ルータ等)：

●具体的な現象について

具体的な現象：
事前にお客様が試みられた事項(あればお伝えください)：

商品名	Wake on LAN対応PCIバス 10/100Mbpsイーサネットボード
製品型番	LD-10/100AWS
メディアタイプ	10BASE-T、100BASE-TX
伝送速度	10Mbps/100Mbps、20Mbps/200Mbps(フルデュプレックス時)
ケーブル規格	IEEE802.3u標準/IEE802.3標準
対応バス	PCIバス
割り込みレベル	自動設定
I/Oポートアドレス	自動設定
LED	LINK(緑:リンクの確立) ACT(緑:データの送受信)
適合規格	FCC Part15 Class B,CEマーキング,VCCI第二種情報処理装置基準
消費電力	4.0W(最大)
動作温度	動作時:0~55℃ 保管時:-20~80℃
動作湿度	10~90%(結露なきこと)
対応機種	IBM PCおよびPC/AT互換機(DOS/Vマシン)、NEC PC98-NXシリーズで 下記の条件を満たす機種(自作機は除く) ・PCIバスの空きスロットがあること ・IRQの空きがあること
対応OS	Windows98/95、WindowsNT3.51 / 4.0 NetWare3.2J / 4.10J / 4.11J、Ms-LanManager
付属品	ドライバディスク(1枚)、ネットワーク監視ツール「Navitool」ディスク(1枚)、 ユーザズマニュアル、ユーザ登録カード、保証書

各営業拠点のご案内

本 社	〒541-8765 大阪市中央区瓦町3-5-7大阪長銀ビル7F
大阪支店	〒541-8765 大阪市中央区瓦町3-5-7大阪長銀ビル10F TEL.06-229-2957(代) FAX.06-229-2729
東 京 エシユ-マ-支店	〒170-8765 東京都豊島区東池袋3-13-2住友不動産東池袋ビル5F TEL.03-5950-4531(代) FAX.03-5950-1409
東 京 システム支店	〒170-8765 東京都豊島区東池袋3-13-2住友不動産東池袋ビル5F TEL.03-5950-4131(代) FAX.03-5950-4133
札幌支店	〒060-0007 札幌市中央区北七条西13-9-1塚本ビル3F TEL.011-281-2450(代) FAX.011-281-2451
仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-5-15日本生命仙台勾当台南ビル3F TEL.022-215-4411(代) FAX.022-215-4412
横浜支店	〒220-0004 横浜市西区北幸2-9-10横浜HSビル2F TEL.045-323-5971(代) FAX.045-323-5973
名古屋支店	〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-17-19名古屋長銀ビル9F TEL.052-223-2531(代) FAX.052-223-2535
広島支店	〒730-0016 広島市中区鞆町13-11明治生命広島鞆町ビル7F TEL.082-228-5920(代) FAX.082-228-7620
福岡支店	〒812-0039 福岡市博多区冷泉町5-35福岡祇園第一生命ビル12F TEL.092-262-5858(代) FAX.092-262-2053
盛岡営業所	〒020-0022 盛岡市大通3-3-10七十七日生盛岡ビル7F TEL.019-653-0228(代) FAX.019-653-0227
高崎営業所	〒370-0828 高崎市宮元町38-10住友生命高崎ビル6F TEL.027-328-8861(代) FAX.027-328-8862
金沢営業所	〒920-0022 金沢市北安江1-3-24ピア金沢5F TEL.076-233-7046(代) FAX.076-233-7048
松山営業所	〒790-0001 愛媛県松山市一番町1-15-2住友生命松山一番町ビル6F TEL.089-921-5706(代) FAX.089-921-5537
熊本営業所	〒860-0806 熊本市花畑町1-1三井生命熊本ビル3F TEL.096-351-4711(代) FAX.096-351-4798

Wake on LAN対応 PCIバス 10/100Mbpsイーサネットボード
LD-10/100AWS
ユーザズマニュアル
発行 エレコム株式会社
1999年4月14日 第1版

LD-10/100AWS

Laneed

ELECOM